

校長	教頭

現代文応用 シラバス

科目名	現代文応用		教科名	国語
学年	3年	単位数	2単位	担当者氏名

1. 科目「現代文応用」について

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2年の学習を引き継ぎ、高等学校の国語の学力を確実に身につけさせる。 目的に応じた的確に読み取る力を養う。
参考	「センター試験過去問題ベストセレクション」(駿台文庫)

2. 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・技能	知識・理解
各テーマ毎の背景知識に関心を持ち、文章読解能力の向上に意欲的に取り組むことが出来る。	評論文のキーワードや文章区切りを把握する力を身に付けている。	文章読解のための漢字力・語彙力など基礎的な知識を身に付けている。
具体例 出席状況、提出物、平常の学習活動、学習態度、ノートのできばえ等。	ペーパーテスト 発表内容 レポート内容	ペーパーテスト 発表内容 レポート内容

3. 観点別学習状況の評価の数量化

評価	内 容	判定基準	得 点
A	十分に理解できると判断されるもの	80%以上	3
B	おおむね満足できると判断されるもの	50%～79%	2
C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	1

※判定基準、得点は各教科・各科で検討し設定。

※評価簿の作成を行う。(例：4観点別評価簿及び実際評価簿については別紙)

4. 各学期及び学年の評価方法

各学期及び学年はシラバスで記載する。また、5段階評価においては以下の通り。

評価内容	100点法	5段階評価
十分満足できると判断されるもののうちで、特に高い程度のもの	80～100	5
十分満足できると判断されるもの	65～79	4
おおむね満足できると判断されるもの	50～64	3
努力を要すると判断されるもの	35～49	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に程度の低いもの	0～34	1

学期	月	学習内容	学習内容・(評価の観点)及び留意点	関心意欲態度	読む能力	知識理解
1	4	「日本の庭について」 山本健吉	<ul style="list-style-type: none"> 作品を読んで、評論に親しむ。 話の構成や展開を把握し、伝承の特質を考える。 	○ ○	○ ○	○ ○
	5	「書くこと」の衰退 「生命の哲学」	<ul style="list-style-type: none"> キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 対比されている東西文明の違いについて、読み取る。 筆者の生命観を読み取る。 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

	6	「都市の憂鬱」 「世界と人間」	<ul style="list-style-type: none"> ・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 ・話の構成や展開を把握し、人物の行動や心情・心理を理解する。 	○		○
	7	「デューク」 「彼岸過迄」	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読んで、人間・社会に対する作者の思想を、理解する。 ・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 	○	○	○
2	9	「なんとなく、日本人」 「感性は感動しない」 テーマ詳説「社会」	<ul style="list-style-type: none"> ・無常観について理解し、日本文化の特質を考える。 ・岡本太郎や、美術大学に対する作者の思想や感情を読みとる。 ・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 	○	○	○
	10	「群衆の生成と消滅」 「グローバリズムとニヒリズム」 テーマ詳説「芸術」	<ul style="list-style-type: none"> ・「群衆」の相反する二つの性質をとらえる。 ・ポストモダンと新自由主義の関係について考える。 ・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 	○	○	○
	11	「美学への招待」 「顔の現象学」	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代の芸術現象」とはどういうことなのかを読み取る。 ・日本文化に強く認められる非相称性志向を読み取る。 	○	○	○
	12	テーマ詳説「文化」 「近代化と世間」	<ul style="list-style-type: none"> ・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 ・日本文化と中国文化・西欧文化の関係について考える。 	○	○	○
3	1	「千利休と蹲るということ」 テーマ詳説「思想」	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考える知識人【戦国時代と帝政ロシア】について、理解する。 ・キーセンテンスに注目し、本文を読み取る。 	○	○	○
	2	「安楽への隷属を拒め」	<ul style="list-style-type: none"> ・「学問」「人生」「政治」という視点に基づいて、筆者の思想を理解する。 	○	○	○

評価方法	<p>定期考査＋豆テスト＋ノート提出＋暗記・音読・プリントなど。 ただし規定の授業時数に達しない生徒は評価保留。</p>
------	--